

1923年9月1日の11時58分ごろ、南関東地方を襲うマグニチュード7.9の大きな地震が発生し、関東大震災が起きました。この地震による死者・行方不明者数は105,385名で、日本史上最も多くの死者をだした地震です。死者数が多くなった原因は、この地震にもなって発生した火事のためです。この震災の教訓を生かすため、9月1日は「防災の日」となり、全国各地で避難訓練が行われています。



関東大震災は正午前に起きました。多くの家では釜戸に火をおこし昼食の準備を行っていました。少し前までは、地震が来たらまず火を消すように言われていましたが、これは、関東大震災の教訓を生かしてのことです。現在は、大きな揺れを感じると自動で火が消えるようになっているので、加熱したもので火傷をしないように、コンロには近寄らないようにとされています。

昔と違って、今の建物には多くのガラスが使われています。従って、火よりもガラスによる怪我に注意しなければなりません。大きなガラスには、飛散防止フィルムを貼り、ガラスが割れても飛び散らないようにするとよいでしょう。

私は小学生の時、学校が火事になり避難したことがあります。私が通っていた学校には給食室があり、学校で給食を作っていました。台風の翌日だったのですが、給食をつくる釜戸の煙突が、強風のため天井裏で折れていて、いつも通り給食を作り始めたところ、火の粉が天井裏に入り火事となりました。避難する途中、給食室の屋根から火柱が立っているのを見たことを記憶しています。距離がけっこうあったので、恐怖を感じることはなく、みんな静かに落ち着いて避難しました。ただ、目の前でものが燃えていたら、そうはいかなかったと思います。

火事の時に気をつけなければならないが「煙」です。煙を吸って気を失い逃げ遅れることが多いようです。新建材などが使われていると有毒なガスが発生し、これによって命を無くす方も多いたまいます。きれいな空気は低い位置にあるので、煙を吸いそうになったら頭を低い位置に下げてきれいな空気を吸うことを忘れずに行ってください。

燃えることによってできた煙は上の方に行くという性質があります。廊下などで天井近くを横に広がっていくのは比較的ゆっくりですが、階段を上っていく速さは非常に早く、人間が階段を駆け上がる速さより速いと言われています。各階の階段近くに防火・防煙扉が設置されているのはこのためです。京都アニメーションの放火火災では、らせん階段近くで火がつけられたため、あっという間に煙が最上階まであがり、屋上に出る扉の前で、多くの方が気を失い倒れて亡くなりました。

始めは天井近くの高い位置にあった煙も、少し温度が下がると下に降りてきて、視界をさえぎります。視界がはっきりしているうちに、素早く非難することが最も大切です！

